総合守谷第一病院臨床研修プログラム

Ⅰ　総合守谷第一病院臨床研修プログラムの特色　・・・・・3

Ⅱ　臨床研修の基本理念　・・・・・4

Ⅲ　臨床研修の目標　・・・・・4

A. 医療人としての基本的能力を身につける　・・・・・4
B. 基本的な診療能力の習得　・・・・・6
C. 経験すべき症状・病態　・・・・・10
D. 経験すべき疾患・病態　・・・・・12
E. 特定の医療現場における経験　・・・・・16

Ⅳ　臨床研修プログラム責任者　・・・・・18

Ⅴ　臨床研修医の指導体制　・・・・・18

Ⅵ　臨床研修病院　・・・・・18

Ⅶ　臨床研修の方略　・・・・・18

Ⅷ　臨床研修の評価　・・・・・19

Ⅸ　臨床研修終了の認定　・・・・・20

Ⅹ　臨床研修医の処遇およびアルバイト診療の禁止　・・・・・20

ⅩⅠ　臨床研修医の募集定員　・・・・・21

ⅩⅡ　臨床研修医の募集および採用の方法　・・・・・21

ⅩⅢ　病院機能に関する認定結果　・・・・・22

ⅩⅣ　後期研修プログラムの概要　・・・・・22

ⅩⅤ　各診療科プログラム　・・・・・23

Ⅰ　総合守谷第一病院臨床研修プログラムの特色

当院は、東京の秋葉原と茨城県のつくば市を結ぶ「つくばエクスプレス」（平成１７年８月開通）の沿線にあり、地域の中核となる総合病院として、あらゆる疾患の患者様への初期対応および専門的診療が求められております。

当院では重症外傷、心筋梗塞、脳血管疾患などを含むすべての分野での一次、二次（一部は三次）救急に専門医が対応するとともに、周産期、小児医療にも力を入れており、本プログラムでは「頻繁に出会う病気に対応できるプライマリ・ケアの診療能力（態度・技術・知識）」を身につけることができます。

１．地域密着型の中規模病院であり、Common disease を抱えた多くの患者様の診療にたずさわることで、総合診断能力を磨くことができます。

２．各診療科の連携がよく、気軽に相談、指導を受けることができます。

３．総合病院であり、後期研修に向けた柔軟なプログラムを組むことができます。

４．周産期・小児医療を含む幅広い診療科が院内で研修可能です。

５．協力型臨床研修病院である筑波大学附属病院との「たすきがけ研修」など多彩な研修コース設定が可能です。

６．恵まれた住環境と保育施設により、女性医師も安心してキャリアを積むことができます。

Ⅱ　臨床研修の基本理念

医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、将来専門とする分野にかかわらず、頻繁に出会う病気に対応できるプライマリ・ケアの診療能力（態度・技術・知識）を身につけ、患者様の痛みを分かち合うことのできる医師としての人格を涵養する。

Ⅲ　臨床研修の目標

現在、研修病院が多様化し、その研修方略も多彩ですが、すべての臨床医にとって基本的に重要な事項は共通しており、それを修得するために必要な経験すべき疾患、検査なども共通すると考えます。

したがって当院では厚生労働省が提示した到達目標を基本に、研修到達目標を設定しました。当プログラムの２年間での研修で厚生労働省が提示した「到達目標」が全て達成できると考えます。

また、当院は従来の大学病院、大病院での研修とは異なり、中規模病院かつ地域の中核病院としての種々の特徴を有しております。

A.　医療人としての基本的能力を身につける

（１）患者－医師関係

一般目標

患者を病める人として受容し、患者・家族と良好な人間関係を確立する。

具体的目標

1）患者、家族の要望を身体・心理・社会的側面から把握できる。

2）医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うため、十分な同意が得られる説明ができる。

3）守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

（２）チーム医療

一般目標

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。

具体的目標

1）指導医や専門医に適切な相談ができる。

2）上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれ、診療に活かせる。

3）同僚及び後輩へ相互教育的な配慮ができる。

4）患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。

5）関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれ、マネージメントができる。

（３）問題対応能力

一般目標

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。

具体的目標

1）臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM =Evidence Based Medicine の実践ができる。）。

2）自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
3）臨床研究の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持って参加する。
4）自己管理能力を身に付け、生涯にわたり全般的な診療能力の向上に努める。

（４）安全管理

一般目標

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画する。

具体的目標

1）医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
2）医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
3）院内感染対策（Standard Precautions を含む。）を理解し、実施できる。

（５）症例呈示

一般目標

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行う。

具体的目標

1）症例呈示と討論ができる。
2）臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。

（６）医療の社会性

一般目標

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する。

具体的目標

1）保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
2）医療保険、公費負担医療、介護保険を理解し、適切に対応できる。
3）医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
4）医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

B　基本的な診療能力の習得

（1）医療面接

一般目標

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。

具体的目標

1）医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動、患者の要望を把握できる。

2）患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。

3）患者・家族への適切な指示、指導ができる。

（2）診察

一般目標

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載する。

具体的目標

1）全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。

2）頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。）ができ、記載できる。

3）胸部の診察（乳房の診察を含む。）ができ、記載できる。

4）腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。

5）泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる。

6）骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。

7）神経学的診察ができ、記載できる。

8）小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む。）ができ、記載できる。

9）精神面の診察ができ、記載できる。

（3）臨床検査

一般目標

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、

A　自ら実施し、結果を解釈できる

B　検査を指示し、結果の解釈ができる

C　検査の適応が判断でき、専門家の意見に基づき結果を解釈できる

具体的目標

以下のうち「必修」の検査について経験があること

1）一般尿検査（A）・尿沈渣顕微鏡検査（B）　必修

2）便検査（潜血、虫卵）（B）　必修

3）血算・白血球分画（A）　必修

4）血液型判定・交差適合試験（A）　必修
5）凝固系検査（PT,APTT,FDP）（B），出血時間(A)　必修
6）動脈血ガス分析　(A)　必修
7）血液生化学的検査（B）　必修
・簡易検査（血糖、電解質、一部の生化学データなど）(A)　必修
8）血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）(B)　必修
・抗原迅速測定検査（インフルエンザ・溶連菌など）(A)　必修
9）細菌学的検査・薬剤感受性検査（B）　必修
・検体の採取（痰、尿、血液など）(A)　必修
・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）(B)　必修
10)髄液検査（B）　必修
11)細胞診・病理組織検査（C）
12)心電図（１２誘導）(A)・負荷心電図(C)　必修
13)呼吸機能検査・スパイロメトリー　(B)　必修
14)超音波検査（A）　必修
15)神経生理学的検査（脳波・筋電図など）(C)
16)内視鏡検査（C）　必修
17)単純Ｘ線検査（B）　必修
18)造影Ｘ線検査（C）
19)Ｘ線ＣＴ検査（B）　必修
20)MRI 検査（B）

（４）基本的手技

一般目標

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

具体的目標

以下のうち「必修」の手技を自ら行った経験があること
1）気道確保を実施できる。　必修
2）人工呼吸を実施できる。（バッグマスクによる徒手換気を含む。）　必修
3）胸骨圧迫　必修
4）圧迫止血法を実施できる。　必修
5）包帯法を実施できる。　必修
6）注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。　必修
7）採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。　必修
8）穿刺法（腰椎）を実施できる。　必修
9）穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。
10）導尿法を実施できる。　必修
11）ドレーン・チューブ類の管理ができる。　必修

12）胃管の挿入と管理ができる。　必修
13）局所麻酔法を実施できる。　必修
14）創部消毒とガーゼ交換を実施できる。　必修
15）簡単な切開・排膿を実施できる。　必修
16）皮膚縫合法を実施できる。　必修
17）軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。　必修
18）気管挿管を実施できる。　必修
19）除細動を実施できる。　必修

（５）基本的治療法

一般目標

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施することができる。

具体的目標

1）療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）ができる。
2）薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。
3）末梢および中心静脈からの輸液の適応を理解し、適切な輸液計画（量および組成など）を立案、実行できる。
4）輸血（成分輸血を含む。）による効果と副作用について理解し、適応に基づいて適切な輸血が実施できる。

（６）医療記録

一般目標

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理することができる。

具体的目標

1）診療録（退院時サマリーを含む。）を POS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。
2）処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
3）指導医の指導の下で診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。
4）CPC（臨床病理検討会）レポートを作成し、症例呈示できる。
5）紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

必修項目　：下記の項目を自ら行った経験があること
１）診療録の作成
２）処方箋・指示書の作成
３）診断書の作成
４）死亡診断書の作成
５）症例レポートの作成、症例呈示

６）紹介状、返信の作成

（７）診療計画

一般目標

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する。

具体的目標

1）診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む。）を作成できる。

2）診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。

3）入退院の適応を判断できる。

4）QOL（Quality of Life）を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。

C.経験すべき症状・病態

一般目標

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得する。

具体的目標

以下の病状、病態について経験し、診療に参加する。

1　緊急を要する症状・病態

＊必修項目：A 項目を経験し、治療に携わる

1）心肺停止(A)
2）ショック(A)
3）意識障害(A)
4）脳血管障害(A)
5）急性呼吸不全
6）急性心不全(A)
7）急性冠症候群(A)
8）急性腹症(A)
9）急性消化管出血(A)
10）急性腎不全
11）産婦人科救急疾患
12）急性感染症
13）外傷(A)
14）急性中毒(A)
15）誤飲、誤嚥
16）熱傷(A)
17）精神科領域の救急

2　頻度の高い症状

＊必修項目：A 項目の症状を経験し、診療記録をまとめる

1）全身倦怠感
2）不眠(A)
3）食欲不振
4）体重減少、体重増加、るい痩（A）
5）浮腫(A)
6）リンパ節腫脹(A)
7）発疹(A)
8）黄疸
9）発熱(A)
10）頭痛(A)

11）めまい(A)
12）失神
13）けいれん発作
14）視力障害、視野狭窄(A)
15）結膜の充血(A)
16）聴覚障害
17）鼻出血
18）嗄声
19）胸痛(A)
20）動悸(A)
21）呼吸困難(A)
22）咳・痰(A)
23）嘔気・嘔吐(A)
24）胸やけ
25）嚥下困難
26）腹痛(A)
27）便通異常(下痢、便秘) (A)
28）腰痛・背部痛(A)
29）関節痛
30）歩行障害・
31）四肢のしびれ・運動麻痺・筋力低下(A)
32）血尿(A)
33）吐血・喀血（A）
34）下血・血便（A）
35）排尿障害（尿失禁・排尿困難）(A)
36）尿量異常
37）不安・抑うつ・興奮・せん妄（A）
38）もの忘れ（A）
39）成長・発達の障害（A）
40）妊娠・出産（A）
41）終末期の症候（A）

D.経験すべき疾患・病態

一般目標

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得する。

具体的目標

以下の疾患・病態について

A：入院患者を受け持ち、診断・検査・治療方針について症例レポートを提出する

B：外来診療または受け持ち入院患者（合併症も含む）で自ら経験する

＊外科症例（手術を含む）を 1 例以上受け持ち、診断・検査・術後管理等について症例レポートを提出すること

（1） 血液・造血器・リンパ網内系疾患

(1)貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）(B)

(2)白血病

(3)悪性リンパ腫

(4)出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）

（2） 神経系疾患

(1)脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）(A)

(2)認知症疾患

(3)脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）

(4)変性疾患（パーキンソン病）

(5)脳炎・髄膜炎

（3） 皮膚系疾患

(1)湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）(B)

(2)蕁麻疹(B)

(3)薬疹

(4)皮膚感染症(B)

（4） 運動器（筋骨格）系疾患

(1)骨折・捻挫(B)

(2)関節・靭帯の損傷及び障害(B)

(3)骨粗鬆症(B)

(4)脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）(B)

(5) 高エネルギー外傷（B）

（5） 循環器系疾患

(1)心不全(A)

(2)狭心症、心筋梗塞(B)

(3)心筋症

(4)不整脈（主要な頻脈性、徐脈性不整脈）(B)
(5)弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）
(6)動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）(B)
(7)静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
(8)高血圧症（本態性、二次性高血圧症）(A)

（６）呼吸器系疾患

(1)呼吸不全(B)
(2)呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）(A)
(3)閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症）(B)
(4)肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞）
(5)異常呼吸（過換気症候群）
(6)胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）
(7)肺癌

（７）消化器系疾患

(1)食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）(A)
(2)小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、大腸癌、痔核・痔瘻）(B)
(3)胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）
(4)肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）(B)
(5)膵臓疾患（急性・慢性膵炎）
(6)横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）(B)

（８）腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む。）疾患

(1)腎不全（急性・慢性腎不全、腎盂腎炎、透析）(A)
(2)原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）
(3)全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）
(4)泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）(B)

（９）妊娠分娩と生殖器疾患

(1)妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）(B)
(2)女性生殖器及びその関連疾患（月経異常（無月経を含む。）、不正性器出血、更年期障害、外陰・腟・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍）
(3)男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）(B)

（１０）内分泌・栄養・代謝系疾患

(1)視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）
(2)甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）
(3)副腎不全
(4)糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）(A)
(5)高脂血症(B)

(6)蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）

（１１）眼・視覚系疾患

(1)屈折異常（近視、遠視、乱視）(B)

(2)角結膜炎(B)

(3)白内障(B)

(4)緑内障(B)

(5)糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

（１２）耳鼻・咽喉・口腔系疾患

(1)中耳炎(B)

(2)急性・慢性副鼻腔炎

(3)アレルギー性鼻炎(B)

(4)扁桃の急性・慢性炎症性疾患

(5)外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物

（１３）精神・神経系疾患

(1)症状精神病

(2)認知症（血管性認知症を含む。）(A)

(3)依存症（ニコチン依存症、薬物依存症、病的賭博等、アルコール依存症）

(4)気分障害（うつ病、躁うつ病を含む。）(A)

(5)統合失調症（精神分裂病）(A)

(6)不安障害（パニック症候群）

(7)身体表現性障害、ストレス関連障害(B)

（１４）感染症

(1)ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）(B)

(2)細菌感染症(ブドウ球菌、ＭＲＳＡ、Ａ群レンサ球菌、クラミジア) (B)

(3)結核(B)

(4)真菌感染症（カンジダ症）

(5)性感染症

(6)寄生虫疾患

（１５）免疫・アレルギー疾患

(1)全身性エリテマトーデスとその合併症

(2)慢性関節リウマチ(B)

(3)アレルギー疾患(B)

（１６）物理・化学的因子による疾患

(1)中毒（アルコール、薬物）

(2)アナフィラキシー

(3)環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）

(4)熱傷(B)

（１７）小児疾患

(1)小児けいれん性疾患(B)

(2)小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ）(B)

(3)小児細菌感染症

(4)小児喘息(B)

(5)先天性心疾患

（１８）加齢と老化

(1)高齢者の栄養摂取障害(B)

(2)老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）(B)

E.特定の医療現場における経験

（1）救急医療

一般目標

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をすることができる。

具体的目標

1）バイタルサインの把握ができる。

2）重症度及び緊急度の把握ができる。

3）ショックの診断と治療ができる。

4）二次救命処置（ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。)ができ、一次救命処置（BLS = Basic Life Support）を指導できる。

※ACLS は、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLS には、気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。

5）頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。

6）専門医への適切なコンサルテーションができる。

7）大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

（2）予防医療

一般目標

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画する。

具体的目標

1）食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネージメントができる。

2）性感染症予防、家族計画を指導できる。

3）地域・産業・学校保健事業に参画できる。

4）予防接種を実施できる。

（3）地域医療

一般目標

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。

具体的目標

1）患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。

2）診療所の役割（病診連携への理解を含む。）について理解する。

3）へき地・離島医療について理解する。

（4）周産・小児・成育医療

一般目標

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。

具体的目標

1）周産期や小児の各発達段階の特性を理解し、適切な医療が提供できる。

2）周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。

3）虐待について説明できる。

4）学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。

5）母子健康手帳を理解し活用できる。

（５）精神保健・医療

一般目標

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。

具体的目標

1）精神症状の捉え方の基本を身につける。

2）精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。

3）デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

（６）緩和・終末期医療

一般目標

緩和ケア・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。

具体的目標

1）心理社会的側面への配慮ができる。

2）　治療の初期段階から基本的な緩和ケア（ＷＨＯ方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。

3）告知をめぐる諸問題への配慮ができる。

4）死生観・宗教観などへの配慮ができる。

（７）臨終時医療

一般目標

終末期を経た死、および突然の死に適切に対応する。

具体的目標

１）通常診療における死の判定ができる

２）残された家族に対し、十分な説明とケアを行うことができる

３）死後の手続き（死亡診断書、剖検、移植、届出等）につき、理解し、指導医の指示のもとに実施できる。

（８）地域保健

一般目標

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応する。

具体的目標

１）保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む）について理解し、実践する

２）介護老人保健施設・社会福祉施設等の役割について理解し、実践する

Ⅳ　臨床研修プログラム責任者

１．主プログラム責任者

遠藤　優枝（総合守谷第一病院　院長（循環器内科））

Ⅴ　臨床研修医の指導体制

１．　臨床研修の実施を統括管理する機関として総合守谷第一病院研修管理委員会を設置する。（委員長：西村　　一　（総合守谷第一病院　小児科科長））

２．　臨床研修プログラム責任者は臨床研修プログラムの作成、管理および個々の臨床研修医の指導・管理を担当する。

３．　指導医は臨床経験７以上で、原則として臨床研修指導医講習会などで研修を終了し、プライマリケアを中心とした指導を行える充分な能力を有する者とする。

４．　指導医１名が指導を受け持つ臨床研修医は３名までとする。

Ⅵ　臨床研修病院

１．基幹型臨床研修病院

社会医療法人社団光仁会　総合守谷第一病院　（研修実施責任者：遠藤優枝（院長））

２．協力型臨床研修病院

国立大学法人筑波大学附属病院　（研修実施責任：瀬尾恵美子（病院教授））

医療法人社団仁愛会　水海道厚生病院　（研修実施責任者：松坂尚（理事長））

公益財団法人　筑波ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ病院　(研修実施責任者:河野元嗣（ｾﾝﾀｰ長)

３．臨床研修協力施設

茨城県竜ヶ崎保健所（研修実施責任者：石田　久美子（所長））

（各研修病院の指導医氏名は　巻末「別表　指導医氏名一覧」に記載）

Ⅶ　臨床研修の方略

１．研修期間

初期研修は２年間とする。

２．研修方式

必修研修科目のうち内科、外科・小児科・産婦人科は総合守谷第一病院で行い、救急部門は筑波メディカルセンター病院ないし総合守谷第一病院で行う。地域医療は総合守谷第一病院でそれぞれ行う。精神科は水海道厚生病院にて行う。選択科目は希望に応じて筑波大学附属病院ないし総合守谷第一病院で行う。

①初年度に必修研修科目である内科 24 週、外科、小児科、産婦人科 4 週以上、救急部門 12 週以上のローテーションを行い、日常診療の基本的手技を習得する。地域医療につい

ては、２年目に４週以上の研修を行う。＊救急医療については、外科のローテーションで基本的な外科処置の研修を行いつつ、救急外来を担当し、当該科の医師とともに診療にあたることで一次から二次（一部は三次）救急の研修を行う。

② ２年目の研修は、将来専門としたい診療を中心に関連診療科での研修を行う。

③総合守谷第一病院にて研修可能な選択科は

内科（消化器科・呼吸器・神経内科・循環器内科）・小児科・産婦人科・外科・脳神経外科・整形外科・皮膚科・麻酔科

また、協力型臨床研修病院である筑波大学付属病院においても放射線科・病理を含む各科の研修を希望することができる。

協力型臨床研修病院である筑波メディカルセンター病院においては、救急部門の研修が実施出来る。

保健・医療行政の研修は竜ヶ崎保健所で行う。

＜ローテーション例＞

＊必修科目を優先する場合

	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週
１年次	内科						救急外来			外科	小児科	産婦人科
２年次	地域	選択科目（当院または協力型研修病院）										

＊将来専門としたい診療科を優先する場合

	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週
１年次	将来の診療科選択			救急外来			内科					
２年次	外科	小児科	産婦人科	地域	選択科目（当院または協力型研修病院）							

３．オリエンテーション

臨床研修医を対象に実際の診療を開始するまでの６日間に亘って、オリエンテーションを行う。臨床研修医全員に共通して必要な項目（医の心、保険診療、診療録の記載法、基本的臨床検査法、院内感染対策、医療安全管理対策、接遇、評価法・EPOC 研修、オーダリング研修など）を講演と実習によって研修するほか、臨床各科・各部とコメディカル部門および協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設の紹介も併せて行う。

４．基本・必修科目別カリキュラム：後述

Ⅷ　臨床研修の評価

１．研修の記録

臨床研修医は EPOC（オンライン卒後臨床研修評価ｼｽﾃﾑ）に研修内容を記録し、自己評価する。

２．評価システム

研修の評価は原則としてＥＰＯＣ（オンライン卒後臨床研修評価システム）で実施するが、臨床研修医の評価については総合守谷第一病院で作成した「総合守谷第一病院　研修医評価表」も症例レポートなどを参考にする。

（ＥＰＯＣ：Evaluation System of Postgraduate Clinical Training）

３．臨床研修医の評価

臨床研修医は EPOC に研修内容を記録し、自己評価をする。指導医はローテーションごとに研修の全期間を通じて臨床研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を EPOC、評価表から把握し形成的評価を行う。評価は指導医ばかりでなくチーム医療スタッフなどによっても行われる。

４．指導医の評価

研修終了後、臨床研修医による指導医と診療科・部（病院、施設）の評価を行い、その結果を指導医と診療科・部（病院、施設）へフィードバックする。

５．臨床研修プログラムの評価

臨床研修プログラム（研修施設、研修体制、指導体制など）が効果的かつ効率良く行われているかを定期的（年一回）に総合守谷第一病院研修管理委員会が中心となって自己点検・評価する。

Ⅸ　臨床研修終了の認定

１．　総合守谷第一病院研修管理委員会に登録し研修を受けた者に対する最終的な修了認定は、総合守谷第一病院研修管理委員会（以下「委員会」という）の議を経て総合守谷第一病院長が行うものとする。

２．　委員会は臨床研修期間修了に際し、臨床研修医の評価を行い、臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証を交付する。

３．　臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で臨床研修医に通知する

Ⅹ　臨床研修医の処遇およびアルバイト診療の禁止

①常勤・非常勤の別

常勤

②研修手当

一年次の支給額（税込み）　基本手当／月（　350,000　円）

二年次の支給額（税込み）　基本手当／月（　350,000　円）

時間外手当：有

休日手当　：有

③勤務時間

基本的な勤務時間（　8：30　～　17：00　）

時間外勤務の有無：有

④休暇

有給休暇：　１年次：10 日、２年次：10 日

夏季休暇：　　有

年末年始：　　有

当直回数：　約３回／月

⑤宿舎

有（単身用：　　3　戸、世帯用：　　0　戸）

⑥研修医室　　有

⑦社会保険・労働保険

公的医療保険（　健康保健　：組合管掌　）

公的年金保険（　厚生年金　）

労働者災害補償保険法の適用　　有

雇用保険　有

⑧健康管理

健康診断（年　1　回）

⑨医師賠償責任保険の扱い

総合守谷第一病院では病院において加入する。他の病院では個人加入が望ましい）

⑩外部の研修活動

学会、研究会等への参加：　可

学会、研究会等への参加費用支給の有無：　有

⑪アルバイト診療

臨床研修プログラムに定められた研修以外のアルバイト診療は、理由の如何を問わず行ってはならない

ＸＩ　臨床研修医の募集定員

１年次：2 名

２年次：2 名

ＸⅡ　臨床研修医の募集および採用の方法

①　研修プログラムに関する問い合わせ先

遠藤　優枝　　所属：総合守谷第一病院　役職：院長

電話：（0297）45―5111　　ＦＡＸ：（0297）45―5050

e-mail：endou-m@moriya.daiichi.or.jp
URL：http://www.moriya.daiichi.or.jp
②資料請求先
〒 302-0102　茨城県守谷市松前台　1-17
総合守谷第一病院　事務部
担当者氏名：　駒田　共章
電話：(0297) 45―5370　・　ＦＡＸ：(0297) 45―5050
e-mail：komada@moriya.daiichi.or.jp
URL：https://www.moriya.daiichi.or.jp
③募集方法
公募
④応募必要書類
1．履歴書　2．卒業(見込み)証明書　3．健康診断書
⑤選考方法
面接
⑥募集及び選考の時期
募集時期：　７月　１日頃から
選考時期：　８月　１日頃から
マッチング利用：　有

ⅩⅢ　病院機能に関する認定結果

日本医療機能評価機構による病院機能評価認定病院
ISO9001:2000 認証病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
日本外科学会外科専門医制度修練関連施設
日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
麻酔科認定病院

ⅩⅣ　後期研修の概要

総合守谷第一病院臨床研修プログラムによる初期研修を終了した臨床研修医はすべて、総合守谷第一病院での後期研修プログラムに参加することが可能です。後期研修では、総合守谷第一病院単独の研修コース以外に、希望によっては筑波大学附属病院との「たすきがけ研修」のコースが用意されており、４年間の後期研修終了時には各学会認定医、専門医資格などが取得できます。

ＸＶ　各診療科プログラム

【必修科目】

内科臨床研修カリキュラム

一般目標

①内科的急性疾患の診断と治療に関する知識と検査技術、治療技術ならびに診療結果の検証技術を修得する。

②内科的慢性疾患の診断と治療に関する知識と検査技術、治療技術ならびに診療結果の検証技術を修得する。（慢性疾患患者や高齢患者の管理上の要点を修得する）

③疾病予防、健康増進活動に関する知識と検査技術、活動技術ならびに活動結果の検証技術を修得する。

④患者の持つ問題を心理的、社会的側面も含め全人的に捉え、患者およびその家族との間により良い人間関係を構築する能力を修得する。

⑤医療チームの一員としての自分の役割を理解し、行動し、診療活動が円滑に行われるよう配慮する能力を修得する。

具体的目標

①基本的診察法

面接技法を身に付け、全身の観察、頭頚部、胸部、腹部、四肢、神経学的診察が行える。バイタルサインの把握ができる。

②基本的検査法

必要に応じて適切に検査を選択、実施あるいは指示し、その結果を解釈できる。

③基本的治療法

薬剤の処方、輸液、呼吸管理、循環管理、食事療法などの適応を決定し、実施できる。

外科的治療、放射線治療、リハビリテーションなどの必要性を判断し、実施できる。

④基本的手技

注射法（皮内、皮下、筋肉、末梢静脈、中心静脈）、採血法（静脈、動脈）、穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）などを身に付ける。

⑤診療計画、評価

文献検索を含む必要な情報収集を行い、問題点を整理し、診療計画を作成、他の医療スタッフと共にその診療計画を評価、変更できる。

⑥健康診断

健康診断を実施し、その結果に基づいて疾病予防、健康増進に関する助言ができる。

⑦患者、家族との関係

適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係の下で問題を解決できる。

⑧チーム医療

医療チームの一員として行動し、必要に応じて病院内の全職種とカンファレンスを行なって、問題を解決できる。

⑨内科に関連した皮膚科の代表的な疾患につき経験する。

方略（LS）

① 病棟での診察、治療を中心とした実務研修

② 入院のマネージメント、治療計画の策定

③ 救急外来での内科系救急疾患一般の実務実習を中心とした研修

④ 内視鏡室での上・下部内視鏡検査、治療の研修

⑤ 心臓・腹部超音波検査の研修

⑥ 放射線科でのCT、MRI等の画像診断を中心とした研修

⑦ 心カテーテル検査を含めた循環器系検査実習

⑧ 各種書類（退院サマリー・紹介状・診断書など）の作成と指導医の添削

⑨ カンファレンスでのプレゼンテーション

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③各種書類の評価

④レポート

⑤自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

外科臨床研修カリキュラム

一般目標

基本的な外科の臨床能力（知識，技能，態度）を身に付けることを通じて、全人的で質の高い医療を行う基本を修得する。

具体的目標

①以下の基本的診察法を実施できる。
面接技法（診断情報の収集，患者・家族との適切なコミュニケーションを含む)、
全身の観察（バイタルサインと精神状態のチェック，皮膚や表在リンパ節の診察を含む)、胸部（乳房を含む)、腹部（直腸診を含む）の診察
②基本的外科疾患について、必要に応じて適切に検査を選択、実施あるいは指示し、その結果を判断できる。
③基本的外科疾患について、以下の治療法の適応を理解し、実施できる。
療養指導、薬物治療、輸液、輸血、食事療法、中心静脈栄養法
④以下の基本的手技を実施できる。
注射法、採血法、穿刺法、導尿法、浣腸、ガーゼ交換、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒法、簡単な切開・排膿、皮膚縫合法、包帯法、軽度の外傷・熱傷の処置、
基本的な骨折の処置、脱臼の処置
⑤患者・家族との良好な人間関係を確立するために必要な基本的事項（コミュニケーションスキル、インフォームドコンセント、プライバシーへの配慮など）を理解することができる。
⑥院内感染予防の重要性を認識できる。
⑦人的理解に基づいて，以下の末期医療を説明できる。
(ア)　告知をめぐる諸問題への配慮
(イ)　身体症状のコントロール（緩和ケア医療を含む)
(ウ)　告知後および死後の家族への配慮
⑧チーム医療を理解し，必要に応じて指導医や専門医へのコンサルテーションを実施できる。
⑨以下の医療記録を適切に作成できる。
診療録，処方箋・指示箋，診断書・死亡診断書・証明書，紹介状とその返事
⑩医療における社会的側面の重要性を認識できる。
⑪基本的な外科疾患について、診療計画およびそれに対する評価を実施できる。
⑫整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の代表的な疾患につき経験する。

方略（LS）

①外来での実務研修
②病棟での実務研修
③手術室での実務研修
④内視鏡室、エコー室での実務研修
⑤各カンファレンスでの症例提示等参加

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

救急臨床研修カリキュラム

一般目標

救急外来で遭遇する患者、病棟で急変した患者に対し、適切な初期対応ができる。

具体的目標

①頻度の高い救急疾患、病態について把握し、診断・治療計画を遂行できる。

②外来患者の入院加療の適応について判断できる。他の医療機関への転送の判断、各科へのコンサルテーションの必要性の判断ができる。

(ア) 指導医の指導のもとで看護師に対し救急救命のための指示を出し、自ら処置が実施できる。

(イ) BLS コースを受講する。

方略（LS）

①ＥＲ（救急外来）における実務研修

②病棟における実務研修

③救急関連勉強会への症例提示等参加

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

地域医療臨床研修カリキュラム

一般目標

地域の診療所（内科標榜）で一般内科、訪問診療に参加し、理解する。

具体的目標

①在宅医療の現場を経験する。

②在宅ターミナルケアの現場を経験し、臨終の立ち会いを経験する。

③かかりつけ医の役割と病診連携の重要性を理解する。

方略（LS）

① 外来診療での実務研修（外来診療）

② 訪問診療における実務研修

③ 守谷第一病院においてMSWと協同して退院後のサポートを研修

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

【必修選択科目】

麻酔科臨床研修カリキュラム

一般目標

将来どのような科を専攻しようとも、基本的な全身管理・危機対応ができるよう、麻酔管理を通して、薬理と生理的変化、呼吸・循環・体液管理を学ぶことを目標とする。

具体的目標

①患者の術前状態を把握し、適切な麻酔計画を立てられる能力を習得する。

②各種検査データ、生体監視装置の各種検査データ、生体監視装置の評価も含め、患者の状況に応じた、適切な麻酔管理を取得する。

③術後痛を含め、ペインコントロールの概要を理解する。

④チーム医療について理解。実践ができる

方略（LS）

①手術室における実務研修

②病棟における実務研修（術前術後回診）

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

小児科臨床研修カリキュラム

一般目標

①小児医療におけるプライマリ・ケアを適切に行うために必要な基本的診療能力を修得する。

②小児の成長と発達ならびにそれに伴う小児疾患の特性を学び、理解できる。

② 小児救急患者の重症度評価と初期救急が適切にできる。

具体的目標

①正常小児の成長発達を生理的、精神的、運動機能的に理解し、説明できる。

②発達に伴う小児の心理の変化、親子特に母児関係の基礎を学ぶ。

③発達段階別小児疾患内容の変化を学び、理解できる。

④小児の発達に伴う適切な診察法(理学的所見)を実行できる。

⑤遺伝性疾患の基礎的な病態、遺伝形式について学ぶ。

⑥ウイルス性、細菌性感染症の基本的診療能力を身につける。

⑦小児期の痙攣を原因別、有熱／無熱性の別などの観点で鑑別できる。

⑧小児喘息の発作時対処法、慢性期管理法を説明できる。

⑨小児および保護者とのコミュニケーション法を習得し、良好な信頼関係を構築できる。

⑩小児診療に必要な処置法を学び、単独または指導者の下で実施できる。

⑪成長段階における検査値、薬用量、輸液量の変化を理解し、診療に役立てることができる。

⑫予防接種、マススクリーニングについて理解し、経験する

⑬医療事故防止・および事故発生後の対処について、マニュアルに基づいた対処法を学ぶ。

⑭新生児・未熟児の生理的変動領域を超えた異常状態の把握法を学ぶ。

⑮正常分娩に指導者と共に立会い、児の状態を評価する。

⑯小児の精神疾患を判定でき、専門医に紹介できる。

⑰小児疾患の症例提示・討論ができる。

⑱小児救急疾患の種類・診察法・病態の把握法・初期対処法(蘇生法を含む)を学ぶ。

⑲小児の検査に必要な鎮静方法を学び、経験する。

方略（LS）

①外来診療での実務研修（一般外来、専門外来）

②予防接種、乳児健診での実務研修

③病棟での実務研修

④救急外来での実務研修

⑤手術室での実務研修（帝王切開）

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

産婦人科臨床研修カリキュラム

一般目標

①女性特有の疾患に関する基本的診療技能を修得する。

②妊娠・産褥・授乳期の女性の身体的、精神的変化を理解し、女性特有のプライマリケアを研修する。

③ 少子高齢化時代にマッチした女性の QOL 向上を目指した医療を学ぶ。

具体的目標

①妊娠・分娩・産褥生理を理解する。正常分娩に立会う。

②妊娠の検査・診断を理解する。

③流・早産の病態と治療を学ぶ。

④分娩周辺の異常事態の病態と治療法を学ぶ。

⑤視床下部・下垂体・卵巣系の内分泌調整系を理解する。

⑥婦人科良性腫瘍の診断法ならびに治療を学ぶ。

⑦婦人科悪性疾患の診断法・治療法を理解する。

⑧産婦人科特異的な問診および診療録の記載法を学ぶ。

⑨視診(一般的視診および膣鏡診) 、触診(外診、内診、妊婦の Leopold 触診法など) 、直腸診、膣・直腸診などの基本的技能を学ぶ。

⑩婦人科内分泌検査 、不妊検査 、 妊娠診断検査、感染症検査、細胞診・病理組織検査 、内視鏡的検査、超音波検査、放射線学的検査等を学ぶ。

⑪産婦人科における基本的治療法を学ぶ。

⑫経験すべき症状、病態、疾患を経験する。

方略(LS)

①外来における実務研修（人間ドックを含む）

②病棟における実務研修

③手術室における実務研修

評価(EV)

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③ レポート

④己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

精神科臨床研修カリキュラム

当院には精神科病棟が無いため、水海道厚生病院にて 1～2 ヶ月間研修する。

一般目標

①患者を身体面だけでなく心理・精神的にとらえる基本姿勢および知識を修得する。

②精神療法および精神科薬物療法について基本的知識を修得する。

③集団力動について学び、チーム医療つくりに役立てる能力を修得する。

④　現代社会における精神的ストレスについて理解できるようになる。

具体的目標

①基本的な面接法を学ぶ。

②精神症状の捉え方の基本を身につける。

③精神疾患に関する基本的知識を身につける。

④精神症状に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。

⑤向精神薬の使い方に慣れる。

⑥基本的な精神療法の技法を学ぶ

⑦精神障害者のリハビリテーションについて理解をする。

⑧職場のメンタルヘルスについて基本的知識を身につける。

⑨精神保健福祉法について理解を深める。

方略（LS）

①病棟での実務研修

②外来での実務研修

③救急外来での実務研修

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

評価時期は、実務研修終了時とする。

【選択科目】

一般目標

初期研修の仕上げとして、研修医自らが研修希望を出し、指導医との検討を経て研修計画を立てる。後期研修につなげていくと共に、今後臨床医として活動していく上で必須の、自己学習、生涯学習の態度を修得する。

なお、専門研修としては筑波大学附属病院全科などの協力のもと臨床研修・研究活動の基礎を修得する。

具体的目標

①自分の知識の足りない点、興味のある分野などにつき、正しく認識できる。

②自分の臨床能力を高めるため、将来につなげるための臨床研修計画が立てられる。

以下、主要な選択科目のカリキュラムを示す。

整形外科臨床研修カリキュラム

一般目標

①脊椎、四肢の骨、関節系における外傷、障害、変性疾患、炎症性疾患などについて基本的診療能力を学ぶ 。

② 整形外科における外傷等のプライマリケアを学ぶ。

具体的目標

①整形外科における基本的な問診方法を学ぶ。

②整形外科領域における診療録の記載方法を学ぶ。

③整形外科的診察方を学ぶ。

④整形外科的基本的検査法を学び、説明できる。

⑤基本的治療法を学び、実行できる。

⑥経験すべき症状・病態・疾患を経験する。

方略（LS）

① 病棟における実務研修

② 外来における実務研修

③ 手術室における実務研修

④ 救急外来における実務研修

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

脳神経外科臨床研修カリキュラム

一般目標

①脳神経外科の救急医療（脳血管障害および頭部外傷）の基本的診療能力を学ぶ。

②意識障害患者に関して基本的診療能力を学ぶ。

具体的目標

① 脳神経外科的な問診法を学ぶ。

② 脳神経外科的な診療録の記載法を学ぶ。

③脳神経外科的診察法を学ぶ。

④脳神経外科的検査法を学び、一部は実行、説明できる。

⑤脳神経外科的基本的治療法を学び、実行できる。

方略（LS）

① 外来での実務研修

② 病棟での実務研修

③ 手術室での実務研修

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする。

皮膚科臨床研修カリキュラム

一般目標

①日常的な皮膚疾患について基本的診療能力を修得する。

②皮膚科的なプライマリケアを理解できる。

具体的目標

①皮疹に関して発疹学に基づく正しい判定を学び、正確に記載できるようになる。

②皮膚糸状菌検査ができる。

③アレルギー検査(皮内反応、プリックテスト、貼布試験）ができる。

④アレルギー検査(IgE 、RAST 検査）の結果が判定できる。

⑤創傷処置ができる。

⑥簡単な切開・排膿ができる。

⑦最低限の外用薬治療ができる。

⑧アトピー性皮膚炎の簡単な指導ができる。

⑨経験すべき症状、病態、疾患を経験する。

方略（LS）

①外来における実務研修

②病棟における実務研修

評価（EV）

①EPOC

②評定尺度を用いた観察記録

③レポート

④自己評価表及び担当医、各部署の評価表

評価時期は、実務研修終了時とする

別表　　指導医師氏名一覧

総合守谷第一病院

小児科	内　科	外　科	婦人科
城賀本　満登	齊藤　巧	渡辺　基信	佐々木　純一
西村　一	遠藤　優枝	小澤　佑介	喜多川　亮
	二宮　治彦		加藤　薫
	鶴重　千加子		**脳神経外科**
整形外科	安達　亨	**麻 酔 科**	
菅谷　郁夫		三浦　芳則	
		小林　真之	

水海道厚生病院

精神科	松坂　尚	河合　伸念	片野　綱大

筑波大学附属病院

内科選択	松井　裕史	松山　政史	坪井　洋人	**救急選択**	小川　光一
瀬尾　恵美子	鈴木　英雄	塩澤　利博	近藤　裕也	井上　貴昭	下村　治
青沼　和隆	森脇　俊和	山縣　邦弘	千葉　滋	河野　了	赤石　義正
宮内　卓	福田　邦明	臼井　丈一	二宮　治彦	下條　信威	菊池　慎二
本間　覚	石毛　和紀	齋藤　知栄	長谷川　雄一	榎本　有希	髙橋　一広
久賀　圭祐	奈良坂　俊明	甲斐　平蔵	小原　直	**外科選択**	小林　尚寛
家田　真樹	長谷川　直之	森戸　直記	坂田　麻実子	松村　明	都島　由希子
小池　朗	松井　裕史	金子　修三	錦井　秀和	平松　祐司	佐藤　幸夫
吉田　健太朗	山本　祥之	臼井　俊明	横山　泰久	坂本　裕昭	鬼塚　正孝
佐藤　明	山田　武史	藤田　亜紀子	栗田　尚樹	榎本　佳治	市岡　恵美香
山﨑　浩	檜澤　伸之	島野　仁	玉岡　晃	松原　宗明	後藤　行延
村越　伸行	坂本　透	鈴木　浩明	石井　一弘	大坂　基男	井口　研子
関口　幸夫	森島　祐子	矢作　直也	石井　亜紀子	加藤　秀之	増本　幸二
星　智也	松野　洋輔	関谷　元博	富所　康志	上西　祐一郎	原　尚人
兵頭　一之介	小川　良子	岩崎　仁	中馬越　清隆	小田　竜也	坂東　裕子
正田　純一	中澤　健介	菅野　洋子	川上　康	倉田　昌直	高安　肇
溝上　裕士	際本　拓未	住田　孝之	竹越　一博	久倉　勝治	新開　統子
安部井　誠人	増子　裕典	松本　功	加藤　貴康	大原　佑介	西山　博之
外科選択	向井　直樹	星　拓男	眞弓　みゆき	櫻井　英幸	
小島　崇宏	金森　章浩	山下　創一郎	藤木　豊	坪井　康次	

星　昭夫	坂根　正孝	山本　純偉	志鎌　あゆみ	奥村　敏之
瓜田　泰久	西浦　康正	清水　雄	小貫　麻美子	福光　延吉
木村　友和	三島　初	左津前　剛	中村　佳子	大城　佳子
河合　弘二	鎌田　浩史	松本　尚浩	**精神科選択**	橋本　孝之
池田　篤史	原　友紀	**小児科選択**	新井　哲明	水本　斉志
神鳥　周也	吉田　太郎	須磨崎　亮	根本　清貴	南　学
渋谷　陽一郎	原　晃	宮本　信也	髙橋　晶	東野　英利子
佐々木　薫	和田　哲郎	有波　忠雄	太田　深秀	増本　智彦
相原　有希子	大久保　英樹	鴨田　知博	塚田　恵鯉子	植田　琢也
鶴嶋　英夫	田渕　経司	堀米　仁志	安野　史彦	田中　優美子
関堂　充	辻　茂希	竹田　一則	佐藤　晋爾	森　健作
松丸　祐司	飛田　忠道	大戸　達之	太刀川　弘和	岡本　嘉一
松田　真秀	上前泊　功	工藤　豊一郎	根本　清貴	那須　克宏
室井　愛	大鹿　哲郎	福島　敬	**病理選択**	高橋　信幸
松村　明	岡本　史樹	宮園　弥生	野口　雅之	椎貝　真成
高野　晋吾	加治　優一	野口　恵美子	長田　道夫	前野　哲博
鮎澤　聡	川名　啓介	高橋　美穂	森下　由紀雄	木澤　義之
鈴木　謙介	木内　貴博	斉藤　誠	上杉　憲子	高屋敷　明由美
山本　哲哉	平岡　孝治	田中　竜太	南　優子	阪本　直人
石川　栄一	岡本　芳史	西村　一記	杉田　真太郎	前野　貴美
中井　啓	**麻酔選択**	**産婦人科選択**	臺　勇一	石丸　直人
中居　康展	田中　誠	濱田　洋実	**選択**	長岡　広香
阿久津　博義	宮部　雅幸	佐藤　豊実	大塚　藤男	河村　由吏可
井原　哲	高橋　宏	小畠　真奈	川内　康弘	栗原　宏
落合　直之	猪股　伸一	水口　剛雄	古田　淳一	人見　重美
石井　朝夫	大坂　佳子	越智　寛之	石井　良征	小金丸　博
江口　清	高橋　伸二	八木　洋也	中村　泰大	
宮川　俊平	福田　妙子	大原　玲奈	藤澤　康弘	

筑波メディカルセンター病院

救急部門	河野　元嗣	阿竹　茂	田中　由基子	新井　晶子
内科救急	鈴木　將玄	廣瀬　由美	五十嵐　淳	